

連続講座「遺跡が語る戦国時代の京都」第 3 回

京都近郊の居館・集落

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 吉崎 伸

1、はじめに

平安時代以降中世まで、京都周辺には多くの荘園が継続して営まれます。その荘園を管理していた荘官はやがて国人（土豪）と呼ばれる地元の有力者となります。戦国時代、京都近郊の農村部には国人たちの居館が数多く営まれます。今回はこうした居館や農村集落の様子を発掘調査の成果から見てみたいと思います。

2、京都近郊の荘園

京都近郊に営まれた荘園の領主は、京内に居住する貴族や社寺でした。荘園内で生産された米穀・野菜などの農産物は、荘園領主の生活には欠かせないものとなっていました。食料のみならず、正月の鏡餅、五月の蓬や菖蒲など荘園領主の年中行事と密接に結び付いていたからです。このため、京都近郊では中世を通じて荘園が維持されていきます。これらの荘園は小規模で複雑に分割支配されているのが特徴です。

各荘園には管理するための荘官が置かれていましたが、やがてこれらの荘官は次第に勢力を拡大して在地領主（国人）として農民とその土地の支配を目指すようになります。室町時代には、国人の主要なものは將軍直属の被官人として組織され、戦国時代に活躍します。

一方、農民は荘園の枠を超え在地の郷村ごとに団結を強めていきます。やがて、正長の土一揆(1428年)、嘉吉の一揆(1441年)の頃には、荘園領主や幕府に対抗するまでに自立していきます。

3、京都近郊の居館・集落

近年、京都の近郊では、在地領主（国人）の居館や農村集落の発掘調査例が増えてきました。以下、主な調査例を紹介しましょう。

①**革嶋館**（京都市西京区川島玉頭町）：革嶋氏は清和源氏の流れをくむ佐竹氏の傍流で、鎌倉時代には近衛氏の代官（下司職）として、革嶋南荘の荘園管理を請け負っていました。室町時代に徐々に勢力を広げ、在地領主となります。天正 10 年（1582）には山崎合戦で明智光秀方に属し、一時勢力を失いますが、江戸時代には当地に復帰しています。革嶋氏が鎌倉時代から代々残してきた『革嶋家文書』（府立総合資料館蔵）には江戸時代中期の屋敷地の絵図が残されています。

2009 年には居館推定地の南部で発掘調査が行われ、屋敷地を方形に囲む堀跡や井戸などが見つ

②**石見城**（西京区大原野石見町）：戦国時代この周辺で活躍した小野氏の居城ともいわれていますが詳細は不明です。応仁・文明の乱では西軍方に属していたと思われ、東軍方の武将野田泰忠らに火を放たれたとの記録があります。

北側を東流する善峰川に臨んで屈曲する堀や土塁が現存しています。城の西側では発掘調査が行われ、建物や井戸など関連する施設が見つっています。

③**上久世城**（南区久世上久世町）：上久世荘、公文寒川氏の居城と考えられるが、詳細は不明です。1976 年の京都市立久世西小学校建設に伴う発掘調査、1982 年の市道建設工事に伴う発掘調査で、堀に区画された鎌倉時代から室町時代の建物群が見つっています。

④**大藪城**（南区久世大藪町）：城主は不明ですが、小字に城屋敷という地名が残っています。1997 年から 2011 年の調査で、堀や溝に区画された敷地に建物や井戸が配置されている様子が明らかになってきました。

⑤**羽束師菱川城**（伏見区羽束師菱川町）：城主などは全く分かっていません。水田の中に竹藪として姿をとどめています。

2014 年には一部が発掘調査され、東側には堀が廻らされ、城内では建物の一部が見つっています。

⑥**竹田城**（京都市伏見区竹田内畑町）：奥田屋敷とも称されます。室町時代、奥田秀清は足利氏の被官だったと考えられ、摂津河内の暴徒が京内に侵入するのを鳥羽で防戦中に討死したとの記録があります。

鳥羽離宮東殿関連の調査で、堀に囲まれ、南北に幾つかの郭に分かれた居館の様子が明らかになってきました。

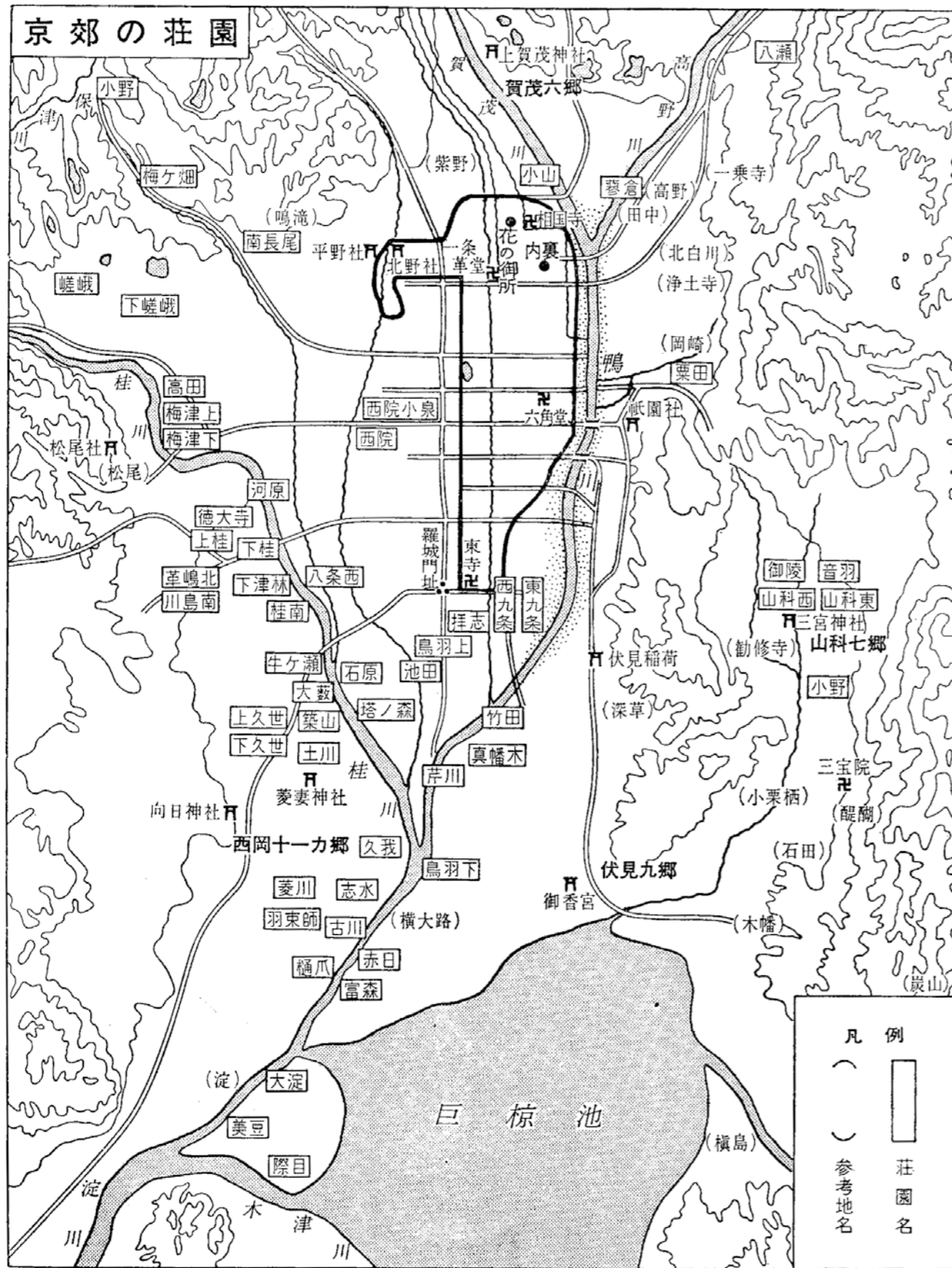
4、まとめ

室町時代初め頃、京都（山城国）には守護が設置されておらず、後に守護が設置されてからも、激しく交代が行われました。そのため山城国には有力な守護(大名)が根付きませんでした。一方で、京都の周辺には古代以来の荘園が数多く存在し、荘園を管理する荘官が在地の有力者（国人）となって、地域を分割統治していました。国人たちは、それぞれの地域に居館を築き、戦国時代になると防御を固めていきます。城を冠する地名や遺構が京都近郊に多数残っているのはそのためです。

それぞれの居館はさほど大きな規模ではありません。基本的に周囲を堀と土塁で囲み、内部に数棟の建物を構えているようです。内部をさらに堀で区画し、いくつかの郭に区分しているものもあります。

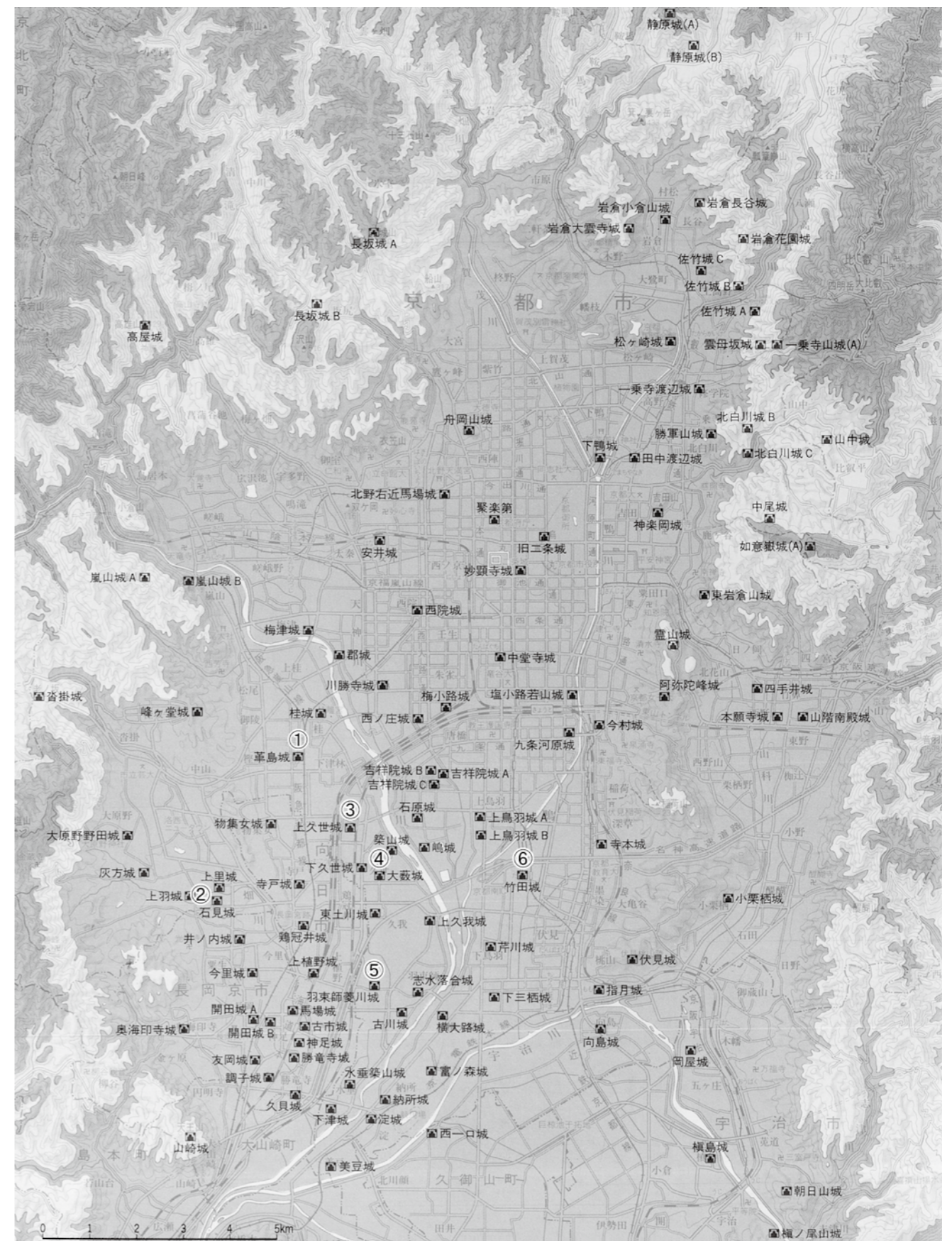
一方、農村集落の実態も分かってきました。大藪遺跡では村の周囲を堀で取り囲み、さらに各屋敷地は堀によって区画されているようです。戦乱に明け暮れた京都近郊の村落も同様に防御を固めていたようです。

京近郊の荘園



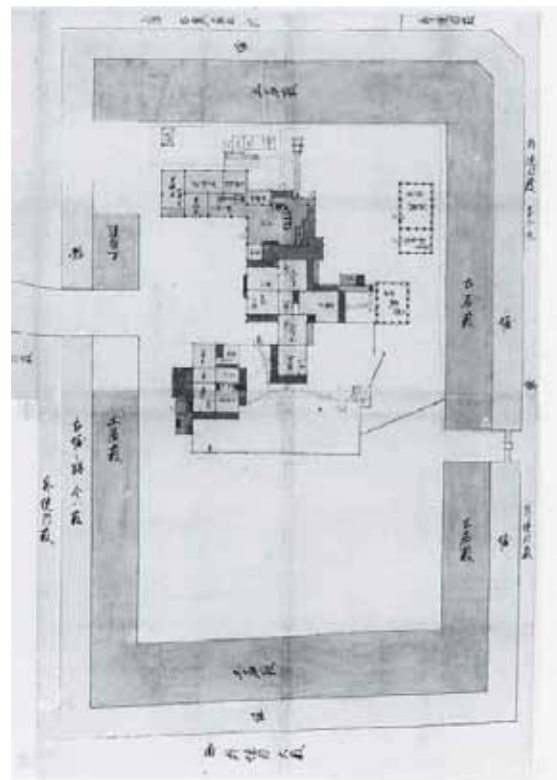
『京都の歴史3 近世の胎動』学芸書林 1968

戦国期城郭分布図



足利健亮編「京都歴史アトラス」中央公論社 1994

①草嶋城



「譲渡草嶋家屋図」
『草嶋家文書』京都市立総合資料館所蔵



「草嶋館復元図」
『リーフレット京都 No. 263 草嶋館跡の調査』2010



1次調査区全景『草嶋館跡』2009-6

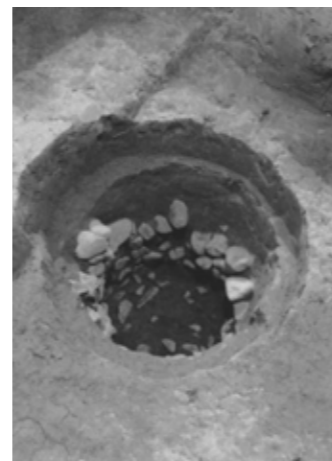


1次調査区 堀1



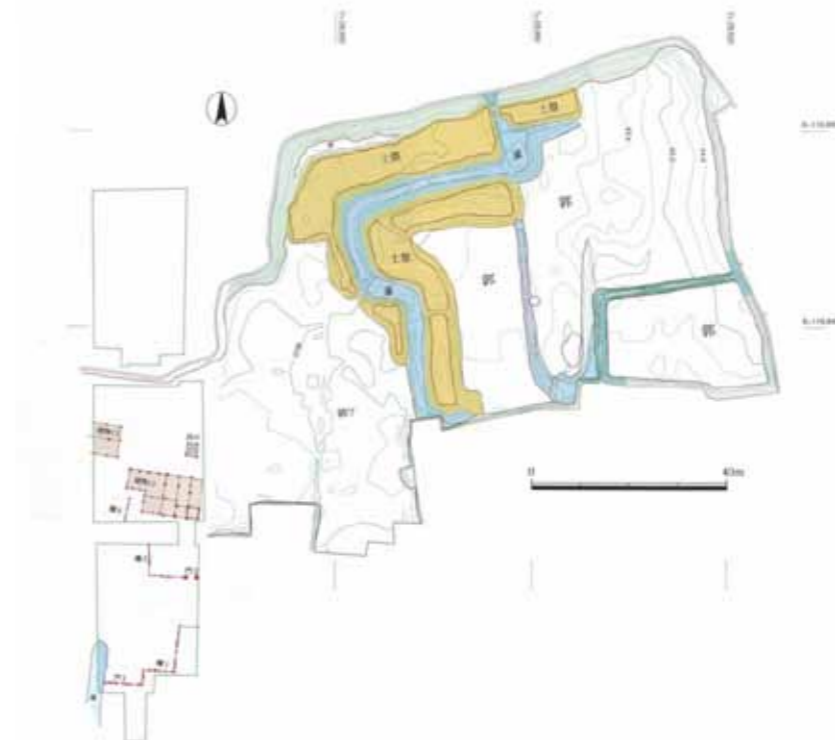
2次調査区全景「草嶋館跡」

『京都市内発掘調査報告』平成21年度



1次調査区 井戸

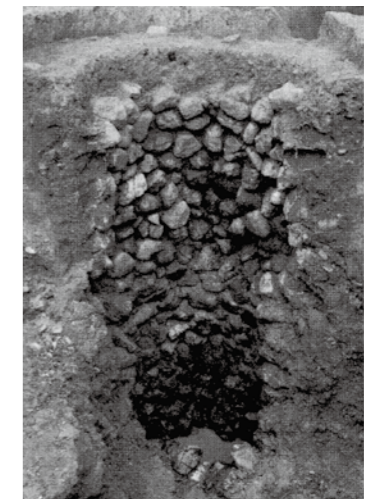
②石見城



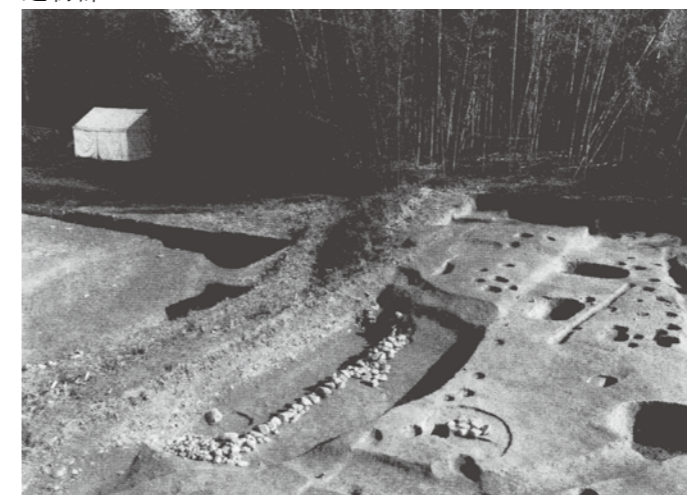
「石見城跡主要部分測量図と16世紀前半の遺構検出状況」
『京の城 - 洛中洛外の城郭 -』京都市文化財ブックス20集 京都市編 2006年



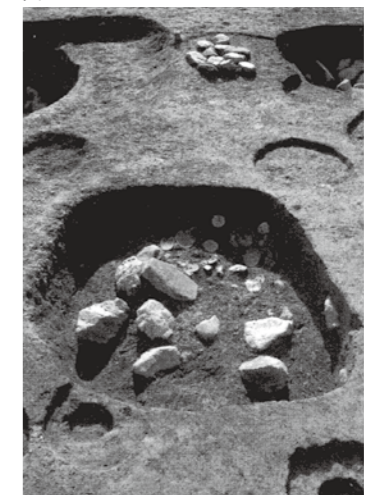
建物群



井戸



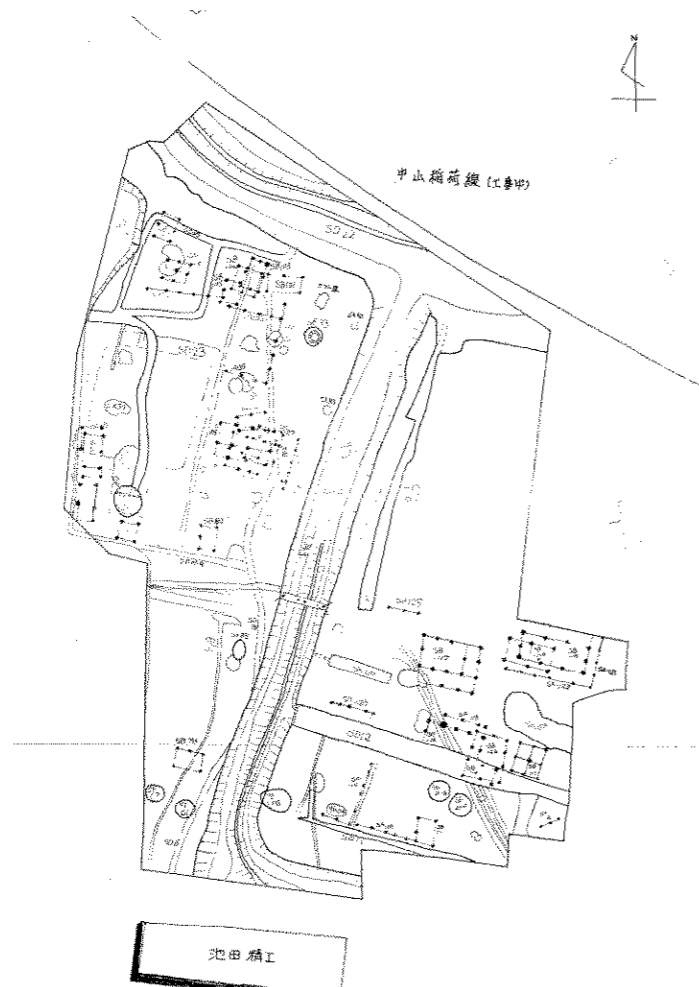
階段状遺構



土坑

『長岡京右一条四坊十五町跡』2014-16

③上久世城



上久世城の内遺跡発掘調査中間報告 1977

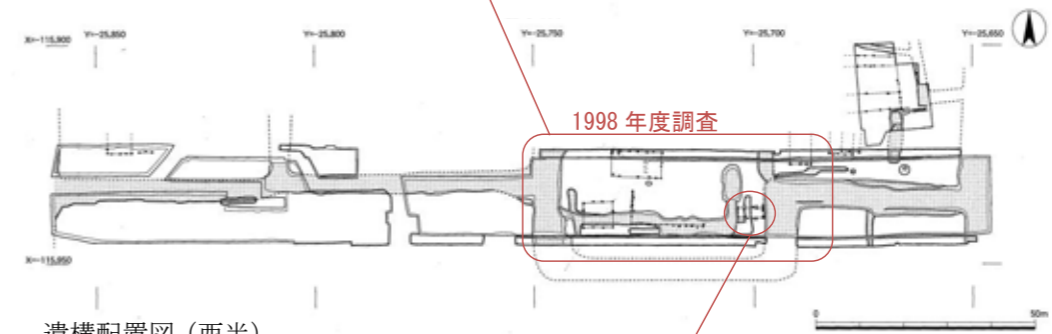


上久世遺跡『昭和 57 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』



上久世遺跡出土の鉄鏃

④大藪城 - 1

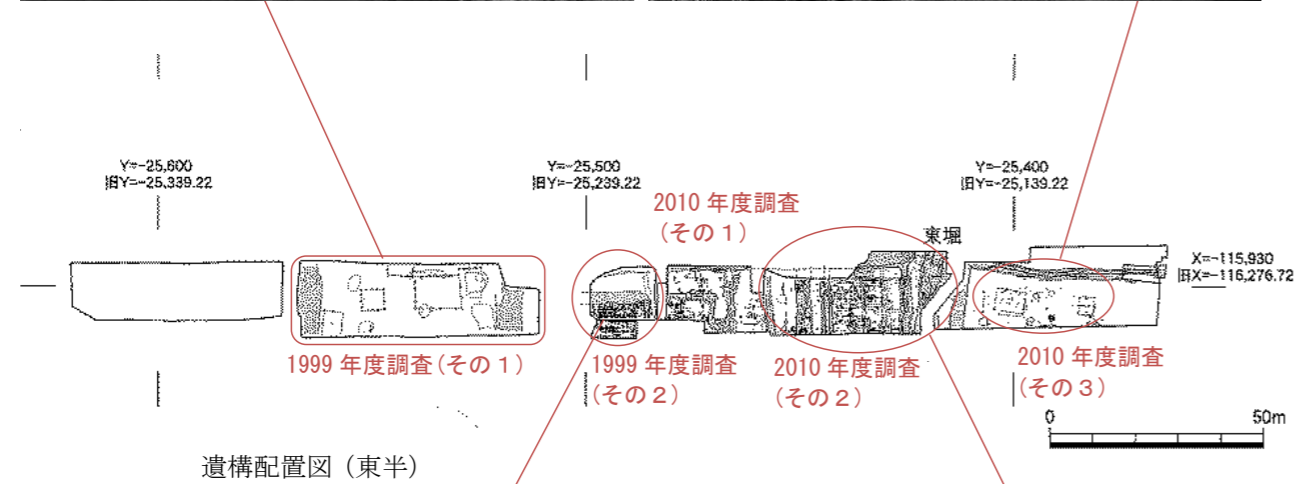


遺構配置図 (西半)



門跡

④大藪城 - 2



⑤羽東師菱川城



現地説明会資料(2013) 元興寺文化財研究所



羽東師菱川城現況



調査状況 1



調査状況 2

⑥竹田城



54次調査(1979)



35次調査(1977)



35次調査(1977) すね当と鉄鏃

